

西宮での高齢者のワクチン接種の開始を P(S)DCA から考える

西宮市・伊賀内科・循環器科 伊賀 幹二（医師）

企業に就職すると、新人研修で「PDCA サイクルをまわす」についての教育を受けます。PDCA サイクルとは、目標とその方法 (plan) を考えて、やってみて (do)、問題点がないか評価し (check)、方法論や目標は妥当か、改善点は何かを検討し、再度計画を練り直す (action) という意味です。私は、それに戦略 (Strategy) を加えて PSDCA としたいと思っています。理由は、やってみる (do) というのは、戦略をその成算性を考慮せず無計画にやってみるのではないことを意識する必要性を感じるからです。

本年 5/12 に市政ニュースに広報された高齢者ワクチン接種計画は、7 月末までの 2.5 ヶ月で、12 万人の高齢者のうち約 1 万回を集団接種で、残り 23 万回分を手あげした 200 の診療所で実施するという案でした。

結果は、私の予測通り、患者が診療所に予約を求めて殺到し診療所の受付業務を大混乱に陥れました。その方法論に対して議論のなかで医師会や行政は、その成算性について考えていなかったとしか思えず、一生懸命やっていたということのをうまくいかなかったひとつの言い訳としていました。「一生懸命」は結果が悪いときの免罪符ではなく、結果が悪ければ PSDCA にそって目標や方法の立て方を変更する必要があります。